

第1回 博多と福岡を結ぶ国体道路の空間利活用検討会

■日時 平成31年3月25日(月) 10:00~12:00	■委員 ・坂口委員長 ・原口委員 ・立花委員 ・佐々木委員(代) ・谷川委員(代) ・竹ヶ原委員 ・三原委員
■場所 天神スカイホール ウエストルーム	・辰巳委員 ・縄田委員 ・中川委員(代) ・榑崎委員 ・南原委員 ・楠下委員 ・遠藤委員

発言要旨

国体道路の空間再配分検討について

【委員発言】

- ・現況のインバウンド状況を考えると外国人の移動特性についてもおさえるべきポイントである。
- ・福岡市が国体道路沿線のまちづくりをどのように考えているのか、長期ビジョンや方向性を踏まえて道路空間のあり方を検討していくべき。
- ・自動車、歩行者、自転車も多く、道路幅員が足りないのであれば、道路を拡張するのが基本であるが、福岡のど真ん中でビル等もあり道路用地買収が困難。短期対策としては難しいかもしれないが車線を減らすというような、自動車の需要の方をコントロールするというこも考えられる。
- ・交通需要コントロールの実現は長期的なものとして考え、短期的な対策をどのように検討するか。
- ・現有空間で実施可能な歩行空間の短期対策は、長期的な道路空間の再編を見据えて検討が必要である。
- ・国体道路の一部は自転車道として分離した矢羽根が整備されているが、途切れがあつて危険であるため、連続性の確保が必要である。

春吉橋賑わい空間のあり方について

【委員発言】

- ・春吉橋付近(清流公園横)のタクシープールは迂回路橋完成後も確保する必要がある。
- ・収益を上げている事例(ブライアントパークや南池袋公園等)も参考にすべき。
- ・資料に紹介されている事例について、整備主体と利活用主体を整理した上で今後の活用方策を議論する方が建設的ではないか。
- ・今すぐに賑わい創出の機能について検討するのか、賑わい空間に当初から恒常的な施設を整備すべきか否かは議論の余地がある。ニーズの変化も考慮し、10年スパンで賑わい機能について検討していくことも議論すべき。
- ・市民や来街者の意識の変容により交通のあり方も変わるため、仕組みづくりや働きかけをどのように進めていくか検討が必要である。
- ・春吉橋周辺は、昼と夜の顔があり、賑わい空間は昼と夜を分けて考える方が良いか、同じイメージで良いかの議論の余地がある。
- ・賑わい空間と屋台との関係性の整理が必要。
- ・賑わい空間のあり方にあわせて、キャナルシティ方面との誘導道路やトイレ等の周辺環境整備の検討が必要。
- ・試行イベントは、実際に実施し課題が出てきたものを改善していくことの繰り返しのプロセスが必要となることから、非常に重要と考える。

以上